

CCJP年次報告書2026

Creative Commons Japan Annual Report 2026

クリエイティブ・コモンズ・ジャパン

2026年10月31日 公表

本報告書のライセンス	3	III. 特集テーマ「生成AI用学習データの対価還元の可能性とコモンズの未来」	17
ご挨拶	4	生成AI・対価還元・コモンズ: CCの25年前と現在	18
I. 組織概要と最近の活動・動向	6	CCシグナルの現況	27
組織概要	7	IV. 会計報告と寄付のお願い	39
II. 最近の関連動向と活動	11		
AI関連	12		
オープンデータ関連	14		
オープンアクセス関連	15		
デジタル・アーカイブ関連	16		

本報告書のライセンス



本報告書はCC BY 4.0 国際 ライセンス

(<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>) で提供されています。

著作者の明示があるセクションについてはその者が、著作者の明示のないセクションについてはNPO法人コモンズフィアが著作者となります。

ご挨拶

クリエイティブ・コモンズ・ジャパン(以下CCJP)は特定非営利活動法人コモンズフィアを組織的な母体として活動するプロジェクトです。日本でクリエイティブ・コモンズ・ライセンス(以下CCライセンス)の開発への参加や翻訳、普及支援などの活動を行っており、ボランティアによって運営されています。

この年次報告書では、CCJPおよびグローバルのクリエイティブ・コモンズの組織(以下グローバルCC)の活動をご紹介します、「特集」的に直近1年ほどの間にメンバー内で議論した生成AI関連の主要動向をご紹介します。最後に2026年3月期の会計報告と寄付のお願いも記載しています。ぜひ一度ご覧いただけたら幸いです。

CCJPでは、活動を共にしていただける事務局メンバーも随時募集しております。活動内容は、CCライセンスの日本法とのすり合わせ、CCライセンスを利用したいユーザへのサポート、各種イベントやプロジェクトの企画運営、ソーシャルメディアでの情報共有、取材対応、事務管理等、多様です。具体的な内容は、ご経験やご興味に応じてご相談させていただきます。CCJPのメンバーとして活動をご希望される方は、info@creativecommons.jpまでご連絡下さい。

I. 組織概要と最近の活動・動向

組織概要

CCJPとは

CCJP (Creative Commons Japan) はNPO法人コモンズフィアを母体とする団体名でありプロジェクト名です。

国際的な連合体であるCreative CommonsのGlobal Networkの一組織(Chapter)であり、国際的な交流・協力などもしつつ、日本国内で独自の活動も行なっています。

CCJPの沿革

2001年: 米国でスタンフォード大学(当時)の法学者ローレンス・レッシング等を中心にNPO法人が設立される。

2002年: 最初のバージョンとなるCCライセンスがリリースされる

2003年: 国際大学GLOCOMをホストとしてCCJP準備会を立ち上げ

2004年: CC 2.1日本版をリリース(世界で米国に次いで2番目)

2006年: NPO法人クリエイティブ・コモンズ・ジャパン設立

2008年: iCommons Summit 2008が札幌で開催される

2012年: クリエイティブ・コモンズ誕生10周年記念イベント開催

2013年: 法人名称をクリエイティブ・コモンズ・ジャパンからコモンズフィアに変更

2015年: 現在の最新バージョンとなるCC 4.0日本語版及びCC0日本語版をリリース

2019年: グローバルな体制変更に伴い日本のChapterとなる。

2023年: CCライセンスローンチ20周年記念イベント「クリエイティブ・コモンズの現在地、シェアの未来」を開催

2025年: クリエイティブ・コモンズ発足25周年記念イベント「生成AI用学習データの対価還元の可能性とコモンズの未来」を開催

CC (Creative Commons) ライセンスとは

- CCJPの活動の中心にあるCCライセンスとはインターネット時代のための新しい著作権ルールで、作品を公開する作者が「この条件を守れば私の作品を自由に使って構いません」という意思表示をするためのツールです。CCライセンスを利用することで、作者は著作権を保持したまま作品を自由に流通させることができ、受け手はライセンス条件の範囲内で再配布やリミックスなどをすることができます。
- 現在のCCライセンスの最新バージョンは4.0で6種類のライセンスが提供されています。またこれとは別に、いかなる権利も保有しないという意思表示を行うCC0というツールもあります。
- CCライセンスは世界各国で活用されており数十億点規模の作品がCCライセンスの下に提供されています。個人が撮影した写真、美術館や博物館のコレクション、政府保有の資料、学術研究の成果、教材など幅広い分野で活用されています。
- より詳しくは、CCJPのライセンス紹介ページをご覧ください
: <https://creativecommons.jp/licenses/>

最近の関連動向と活動

渡辺智暁

AI関連

背景

- ・ Creative Commonsでは、学習データの利用をめぐる状況を変えるための新しいツールを提案しはじめた

活動

- ・ 米国のCreative Commons のブログの一部を翻訳・紹介
- ・ 「[シグナルからインフラへ：AI時代に向けたコモンズの強化](#)」
- ・ 「[『クローリングへの対価\(Pay-to-Crawl\)』に関するCCの見解](#)」
- ・ 「[オープンスタンダードにおける選択肢の統合：CCシグナルとRSL標準](#)」

AI関連(2)

- ・イベント開催

「CCJPシンポジウム「生成AI用学習データの対価還元の可能性とコモンズの未来」

主催：クリエイティブ・コモンズ・ジャパン

後援：国際大学グローバル・コミュニケーション・センター(GLOCOM)

開催主旨・概要

当日の動画：

- ・渡辺：youtu.be/HOu3ncvGZ4U
- ・加藤さま：youtu.be/7Ce9-RpwUn0
- ・豊倉：youtu.be/WTfWbjWcOok
- ・パネル討論：youtu.be/cEAgrrfQt-I

オープンデータ関連

背景

- ・ 日本政府や地方公共団体が、保有するデータやウェブサイト自体などをクリエイティブ・コモンズ・ライセンスなどで提供し、個別に許諾を取得することなく利用できるようにしている。
- ・ 「[公共データ規約 1.0](#)」ではCC BY 4.0 国際ライセンスとの互換性が確保されている。

活動

- ・ 主にお問合せへの対応の形で活動

オープンアクセス関連

背景

- ・ 学術論文や研究データなどを利用条件を明示して公開する動き
- ・ クリエイティブ・コモンズ・ライセンスが推奨されている
- ・ 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」という文書で、2025年以降の競争的研究助成金の成果になる論文のOA化を求めていくことに

活動

- ・ 主にメールでのお問い合わせへの対応の形で活動
 - ・ ライセンスの解釈についてのお問い合わせ
 - ・ 非営利や改変不可のライセンスの検討に際しての参考情報

デジタル・アーカイブ関連

背景：

・クリエイティブ・コモンズ（CCJPではなく米国に本拠をおくグローバル統括組織）が主導し、デジタル・アーカイブのアクセス・利用条件の改善を求める運動を展開している。

活動：

- ・日本の状況についての簡単な[記事](#)執筆（英語）
 - ・ 国際プロジェクトの後方支援
 - ・ 執筆依頼への対応（進行中）

III. 特集テーマ

「生成AI用学習データの対価還元の
可能性とコモンズの未来」

生成AI・対価還元・コモンズ : CCの25年前と現在

渡辺智暁
「生成AI用学習データの対価還元とコモンズの未来」
発表資料 於: GLOCOM・オンライン、2026.07.25.

本イベントの開催主旨

- 対価還元についての議論が少ない
 - 水野の指摘から本イベントを企画
- 生成AIをめぐる主要な論点のひとつ
- CCの四半世紀を振り返りつつ考えてみたい

※CCJPの理事長ですが、個人の見解です。

CCJPではなく、CC(組織やムーブメント)の話が主です

20周年記念イベントにおける議論

- ・著作権法もこれまでの延長で考えることが最適とは限らない
- ・CCも大きな転換点を迎えているのではないか
- ・クリエイター、法律家、技術者など様々な人が議論する中からCCを生み出したことに立ち返るべき

(23.1.「クリエイティブ・コモンズの現在地、シェアの未来」ドミニク・チェン、野口祐子、水野祐、山崎富美、渡辺智暁)

以降の議論

・クリエイター、技術者、法律家を含む様々な方をお招きし、生成AIについて様々な切り口から議論

開催時期	タイトル	登壇者(敬称略)	創	法	技
23.11	生成系AIとオープン化	豊倉幹人、水野祐、渡辺智暁		○	○
24.5	生成AIから考える著作権法・制度の中長期課題	奥邨弘司、中川譲、増田雅史、渡辺智暁	○	○	
24.8	AI、DA分野の著作権に似た制度課題検討	中村覚、豊倉幹人、渡辺智暁			○
25.9	生成AIの学習における著作物の無断利用をめぐって	小沢高広、庄司昌彦、豊倉幹人、渡辺智暁	○		○

CCの達成と限界

- 国際的なデファクト標準になった領域もある
 - 政府データ、教材、学術資料、デジタルアーカイブなど公益性の高い領域で特に採用が広がった
- ライセンスされた情報資源の量・領域は拡大を続けている
 - Flickr.comの画像は4億点程度
- ビジネス利用は限定的
 - (ライセンスの標準化からは遠い領域であることも一因か?)
 - (オープン戦略は広がっている:「無料アクセス」、「二次利用ガイドライン」)
- リミックスなどの二次利用の度合いは領域によって大小さまざまに見える
 - ソフトウェアは堅調に見える(がCCはCCライセンスを非推奨)
 - ウィキペディア、各種情報収集・整理用Wikiのように事実系のものも、デジタルものづくり、ボーカロイド系音楽、SCP財団など創作系のものもある。
 - ボーカロイドはCCライセンスによる利用でないものも多いと思われる。
 - 写真・画像の利用はおそらくかなり存在しているのではないか(問い合わせ件数等から)
 - ただし、国内は「いらすとや」さん提供の画像利用も目立つ

著作権をめぐる25年前との違い

- 昔:コンテンツ企業と業界団体が敵視されがちだった
 - (アーティストとユーザーの中間にある組織であることも価値を低く見られやすい)
 - →クリエイターやインフルエンサーが多様なプラットフォームを使い収入を得るようになった

→今:大手AI企業や大手プラットフォーム企業が敵視されがちに

- 昔:著作権不要論も現在より盛んだった

→今:収益を得るクリエイターの裾野が広がって著作権侵害の被害者が広がり、権利意識も広まった

- 昔:「P2Pファイル共有」で非正規コピーが流通、大量の訴訟も起きた

→今:サブスクサービスの広がりにより、非正規コピーへのニーズは減少

無許諾アップロードだけでなくそのダウンロードも違法化が進む

CCの立ち位置の変化：昔は著作権拡大を懸念

- コンテンツホルダーが大組織、利用者は多数の個人を含む
- CCは著作権廃止や著作権の大改正を指向しなかった。
- 大組織より個々のネット利用者を支援しがち
- 主にC2C的な領域を支援しようとしたようにも見える
- シェアをしたい人たちの支援 + シェアされたコンテンツを使いたい人たちの支援
 穏健路線
- 自主的な制度形成による著作権制度からのオプトアウト
- 権利拡張による利用阻害を懸念しがち
- アンチコモンズの悲劇、取引コストを懸念しがち
- コンテンツのシェアを簡便にする仕組みを設計

CCの立ち位置：今は著作権以外のアクセス制限を懸念

- 巨大企業を含むAI開発者（ただし、零細スタートアップも含む）がデータ利用者
- データホルダーは多数の個人も、巨大プラットフォームも含む
- 当面の関心領域はB2B中心にも見える
- 生成AIによって著作権などの権利拡張論もあるところだが、CCはこの路線を指向していないように見える。
 - 迷っているようにも見える
- 「作風」「事実」などに権利を拡張し、利用も制限する？ →No
- 自由な学習データ利用によるAI推進のみを考える路線？ →No
- ある種の穏健路線のようにも見える。
 - このままではネット上で表現、言論、情報のシェアを行う人が減る
 - コモンズの悲劇への懸念
 - ただし、AI開発者などへの課税、規制路線での解決ではない。
 - 「学習データ利用の禁止」に対する「例外」を設け、過度な利用制限を回避
 - 取引コストについては引き続き懸念
- コンテンツのシェアを簡便にする仕組みを設計

CCの大きな課題

- (少額)決済との組み合わせによるライセンシング
 - クリエイターエコノミーへの対応
 - 現在はプラットフォーム内が主、Web3やメタバースでついに広がるかとも思ったが...
- 強制力のない「お願い」の組み込み
 - パブリックドメイン資料にCC BYなどのライセンスをつけてクレジットを求めようとする組織などの、いわゆる「PD BY」対策(デジタルアーカイブ、オープンデータ、など。)
 - 対応を間違えると、ライセンスは統一、利用規約が増殖、という困った未来もあり得る
- CC Signalsはこの両方に接点を持つことになるようにも見える。
 - まだ路線が定まっているわけではないようにも見える。

CCシグナルの現況

2026/07/25

豊倉幹人



本スライドはクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 ライセンスの下に提供されています

自己紹介

名前	豊倉幹人
職業	Web エンジニア
CCJPでは	主にCC本部のブログを和訳して掲載するのをやってます (最近は Gemini に訳してもらったものを手直しするだけになっている)

タイムライン

2023年8月	AI の学習に関して、クリエイターの希望を示すための手段の必要であるという空気が出てくる (Preference Signals) <ul style="list-style-type: none">• AI学習のためのプレファレンス・シグナルの可能性を探る
2025年6月	CCシグナルが発表される <ul style="list-style-type: none">• CCシグナルの紹介：AI時代の新たな社会契約
2025年8月	フィードバックを受け、課題感が共有される <ul style="list-style-type: none">• 皆の声がCCシグナルを形作る：フィードバックへの回答
2025年11月	CCシグナルアルファ版ローンチが予定されていたが流れる
2025年12月	Really Simple Licensing (RSL) 1.0 Specification がリリースされる <ul style="list-style-type: none">• RSL AI Licensing 1.0 Now an Official Industry Standard with New Capabilities as Momentum Accelerates• オープンスタンダードにおける選択肢の統合：CCシグナルとRSL標準
2026年5月	CCシグナルの一環として「共有のための次世代インフラ」を構築する計画が発表される <ul style="list-style-type: none">• シグナルからインフラへ：AI時代に向けたコモンズの強化

CCシグナルとは

- AI 時代における互恵性の向上と創造性のコモンズの持続を目指して設計された、意思表示のための新たなフレームワーク
- データセット保有者が、...自身のコンテンツが機械によってどのように再利用されるかについての意向を表明できるようにするもの

「[CCシグナルの紹介：AI時代の新たな社会契約](#)」より

CCシグナルとは



Credit



Credit + Direct Contribution



Credit + Ecosystem Contribution



Credit + Open

CCシグナルとは

- robots.txt または HTTP のヘッダーに情報を埋め込む形での利用が想定されている
- CCライセンスのように、作品にアイコンを貼り付ける、というものではない
- 詳しくは去年の発表資料をご参照ください
- [CCシグナルの紹介](#)

RSL 標準とは

- Really Simple Licensing (RSL)
 - [What is RSL? | RSL: Really Simple Licensing](#)
- Web 上のコンテンツ利用ルールを機械が理解できる形で記述するためのオープンな XML ベースの標準仕様
- コンテンツ提供者は、コンテンツの利用条件、ライセンス、法的条件、AIやクローラーによるアクセス・処理・利用・対価の要件を明示できる

RSL 標準とは

- `<payment>` 要素の `type="contribution"` はクリエイティブ・コモンズ（HQ）との協力により追加されたい
 - `> contribution`: A good faith monetary or in-kind contribution that supports the development or maintenance of the assets, or the broader content ecosystem.
 - コンテンツの開発・維持、またはエコシステムを支援するための善意による金銭的またはその他の形式での貢献

RSL 標準とは

- CCシグナルと組み合わせて使う場合おそらくこのような形

```
<license>
  <permits type="usage">ai-use ai-train</permits>
  <payment type="contribution">
    <!-- 下記は現時点では存在しない架空の URL -->
    <standard>https://creativecommons.org/cc-signals/cc-cr-ec</standard>
  </payment>
</license>
```

CCシグナルの今後

- 現時点のツールで意思表示を行えるよう支援する
 - AIの文脈でCCライセンスが何を意味するのか、どのような効果があるかがよくわからない
 - セクター別の暫定的なガイダンスの提供

CCシグナルの今後

- AIエコシステムにおいてクレジット表示を規範にする
 - 初期バージョンではクレジット表示が「推奨事項」となっていたが、「必須の要件」にすることを考えている
 - クレジット表示をする方法のガイダンスを策定する
 - RAG（検索拡張生成）モデルにおいてどのようにクレジット表示を実現できるかを実証していく

CCシグナルの今後

- 公益目的の利用を保護しつつ、主体性を回復する新しいツールを構築する
 - クリエイターの主体性と公益目的の利用のバランスを取ったAIオプトアウトツールの開発・普及
 - オープンに共有されたコレクションへの「条件付きアクセス」を可能にする新しいツールの研究開発

IV. 会計報告と寄付のお願い

会計報告

CCJPの活動母体である特定非営利活動法人コモンスフィアの2026年3月期の会計報告は以下の通りとなります。

2026年3月期 活動計算書サマリ

(単位:円)

科目	金額
I 経常収益	
1 受取会費	130,000
2 受取寄附金	0
3 その他収益	5,997
経常収益計	135,997
II 経常費用	
1 イベント費用	58,092
2 通信費	78,221
3 報酬手当	55,000
4 雑費	20
経常費用計	191,333
III 経常外収益	55,000
当期正味財産増減額	(336)

寄付のお願い

CCJPは「I. 組織概要と最近の活動」に記載したような様々な活動を行なっています。これらの活動は基本的にはボランティアによって行われていますが、より活発で広範な活動を行うため、皆様からのご支援をお願いしております。寄付を通じて私たちの活動をサポートしていただけたら有難いです。

集まった寄付金はCCJPの活動資金として、様々なプロジェクトの運営費等に使用させていただきます。用途については事務局にご一任させていただければ幸いです。なお、イベントや会議のためのスペース提供等の様々な形でのご支援も歓迎しております。

また、グローバル組織であるCreative Commonsでも寄付は受け付けておりますが、そちらはCCJPとは別会計となります。CCJPもこのCreative Commonsからの資金援助を受けることも稀にありますが、CCJPとしての資金で活動することで、国内での活動・国内メンバーの活動の一層の充実を図りたいと思っております。

詳細はCCJPのウェブサイトに掲載されています。是非ご覧下さい：<https://creativecommons.jp/donate/>
皆さまからのご支援をお待ちしております。